

## 特集 I ニューガラスフォーラム 20 周年記念

ご挨拶：国際連合大学より

### ニューガラスの役割

国際連合大学副学長

安井 至



最近、大型テレビを一台購入した。機種を選定には、非常に時間が掛かった。環境的な負荷と性能とのバランスがもっとも妥当なもの、という観点からあらゆる検討を加えた。それには、画質、重量、サイズ、消費電力、寿命、劣化速度などなど、様々な要素を勘案する必要があったからである。そして、結果的には、47 インチリアプロジェクション型テレビに落ち着いた。恐らく、読者諸兄の選択とは違う機種なのではないか、と思われる。

なぜ、この機種を選択したのか。それはニューガラス技術とも言えるマイクロ光学技術を最大限に活用して、高画質・高輝度を実現すると同時に、このサイズとしては画期的な低消費電力である 180 W を達成しているからである。これは液晶式なら 32 V 型、ブラウン管式であれば平面 28 インチワイド型テレビに相当する。50 インチのプラズマテレビであれば、最近かなり消費電力が低下したが、それでも 400 W 以上だろう。すなわち倍以上の消費電力である。

以前、ニューガラスフォーラムで未来産業戦略を議論させていただき、そのときのキーワードとして、「リアルと環境」を提案した。リアルとは、映像や画像などをできるだけ真実に近い品質で再現すると同時に、情報を実時間で伝達できる速度と信頼性の確保などを意味するキーワードであった。一方、環境の方は様々な環境要素の改善を意味するものであったが、特に、技術的進歩によって、省エネルギー/省資源を果たすことの必要性を主張したものであった。

ニューガラスフォーラムがこのキーワードを使い始めてから、リアルをキーワードとするテレビが出現した。三菱電機のハイビジョンと同等の分解能をもった 37 型液晶テレビである。どうやら、当初奇異に思われた人も多かった「リアル」というキーワードであるが、やっと世間に認知された始めたのではないだろうか。このように見ると、現在の消費の牽引車である大型平板テレビの世界では、「リアルと環境」が一部で実現でき始めているようである。

さて、環境の世界では、このところ 2005 年 2 月の京都議定書の発効が大きな問題になっている。地球温暖化問題は、それ単独で存在している訳ではなく、その背後にエネルギー資源の供給限界という究極とも言える環境問題を包含している。いよいよ地球の限界を意識し、その限界を様々な局面で超えている人間活動を今後どのようにすべきか、という問題が、地球温暖化として現れている。

問題解決の前提として、地球上のあらゆる現象と情報を把握し、未来への影響を予測し、的確な判断を可能にすることが必要不可欠である。そして、すべての人がその結果を知ることが重要である。すなわち、地球上で生きるすべての人々に、過去の地球、現在の地球、そして、未来の地球を映像としてリアルに伝達することによって、人類の生存を支えている地球の上での、自らの生き方を振り返って貰うことが必須である。

このように考えると、ニューガラスが「リアルと環境」をまず実現し、その次の課題として、ニューガラスを使って「環境をリアル」に表現することが求められる時代が来るように思える。